

- ・2018年6月3～4日、カナダのモントリオールにおいて、史上初めて、日本を含む主要国のアルミニウム協会の主催による「アルミニウム・サミット」が開催された。カナダ、EU、米国および日本等のアルミニウム協会及びカナダ政府(シャンパーニュ国際貿易大臣)の他、アルミメジャーの代表が参加した。
- ・会議においては、G7及びG20各国政府に宛てた「アルミニウムのグローバル・フォーラムの創設の要請」が決議された。
- ・当協会からは、田端祥久専務理事が参加した。

[アルミニウム・サミットの概要]

- ・日時 2018年6月3～4日
- ・場所 カナダ モントリオール
- ・主催 カナダ、EU、米国及び日本のアルミニウム協会
- ・参加者 約100名
  - カナダ政府関係者 シャンパーニュ国際貿易大臣、アングレイド ケベック州副知事他
  - 企業 アルコア社、アルエット社、リオテイント社、ハイドロ社、アーコニック社、コンステリウム社他
  - 協会 カナダ、EU、米国、日本。フランス等

[アルミニウムのグローバル・フォーラムの創設の要請の概要]

- ・アルミニウムの世界需要は増加しているが、製錬、加工、リサイクルの各段階で、今後とも市場主導による成長が求められる。しかしながら、政府補助金による過剰設備やその他の市場歪曲的な行動により、アルミニウム産業の健全な成長が妨げられている。その対応のために、今般のアルミ・サミットにおいて、健全な世界のアルミニウム市場の発展に向けたロードマップを策定した。
- ・ロードマップでは、アルミニウムの生産において巨大な存在である中国に注目した。中国は、政府補助金や各種の優遇措置によって、生産能力の拡張を続けている。それは、世界の民間企業間の競争を妨げ、市場に基づく能力拡張を抑制することにつながっている。自由で公正なアルミニウムの貿易が影響を受けている。
- ・その解決のために、今般のアルミニウム・サミットでは、堅実な国際的な監視機能を有するアルミニウムの過剰設備に関する多国間の政府によるグローバル・フォーラムが必要の結論に達した。
- ・G20がグローバル・フォーラム及び国際的な監視システムを創設することについて、G7からG20に働きかけるように、G7各国に要請するものである。

(注)今週(6月8～9日)、カナダで開催されるG7において取り上げられることによって、今秋(11月)、アルゼンチンで開催されるG20で「グローバル・フォーラム」の設置が決定されることを想定したものの。